



チー ム 下 山

身延町立下山小学校
Tel 0556-62-5107
Fax 0556-62-5388

下山小の合い言葉 あいさつ いのち うんどう えがお おもいやり

この時期は、二十四節気の「小満」にあたります。草木も花々も、鳥も虫も人も、日を浴びて輝く季節といわれています。

そして下山小学校では・・・・・・，教室に運動場に廊下に，たくさんの可愛い花々（児童）が咲き誇っています。静かだった学校が，明るさを取り戻した瞬間です。活気に満ちた子どもたちを，大きな校舎が温かく包み込んでいます。いよいよ今日が，待ちに待った再スタートの日です。



校庭のアケボノツツジ

実際，下山小学校の周りには，たくさんの花が咲いています。入学式にはサクラ，5月になるとハナミズキやアケボノツツジ，サツキツツジ，シルバークリパット等々，これからは，あじさいの花やジニア，ニチニチソウ，ペチュニアなども咲きます。

ふと考えたのですが，もし，学校にある花々がみんな同じ花だったらどうでしょう・・・・。

それももちろんきれいです。でも，みんな同じではなく，違っているから楽しいのです。どの花もそれぞれに個性をもっています。だから楽しいし，素敵なのです。この花は花びらが小さいからため，この花は色が薄いからため，そんなことはありません。みんな違ってみんないいのです。どの花も良いところはたくさんあります。その良いところをたくさん見つけて楽しめばいいのです。

いろいろな花を愛でながら学校も同じではないかと思えます。学校にはいろいろな子がいます。



正面玄関の花々

背の高い子も低い子も，歌が好きな子もスポーツが好きな子も，大きな声の子も小さな声の子も，みんな大切な下山小学校の子どもたちです。みんな同じではなく違っているから素晴らしいのです。人は誰でも良いところをたくさんもっています。その良いところをお互いに認め合いながら楽しい学校生活を送ってほしいと願っています。

学校再開に向けて三位一体

アフリカでは，「一人の子どもを育てるのに，村全体が必要である。」という諺があるそうです。まさにその通りだと感じます。下山小学校・家庭・地域とが三位一体となり，地域の子どもは地域（共同指導体制）で育てることのありがたさをひしひしと感じます。

再開に向けて，美しい環境の中で学習できるように，地元シルバ人材センターの山田さん，高野さん，望月さんと教職員とで，学校周辺の草刈り等の環境整備を行いました。

また，校舎内での新型コロナウイルス感染症対策として，教職員全員が力を結集し，予防のための対策を立てました。教室内の除菌ができるよう超音波噴霧器を21台も，町からいただきました。



シルバーさん

収束までにはまだまだ時間がかかりそうです。子どもたちの健康と命を守ることが最優先なので，今後ともご協力をよろしくお願いたします。なお，授業時数も確保し，夏休みを縮小したり行事を精選したりする中で，授業時間は十分確保することができますのでご安心ください。

大切な子どもたちのために、今、私たちができること！



全職員で作業開始



図工室仕切りシート作成



理科室仕切りシート作成



1mの長さ体験人形



給食配膳台床へのテーピング



学習机床へのテーピング



教師着用：児童への飛散防止マスク3種類



超音波噴霧

PTA 執行部会 開催！

5月8日に、下山小学校図書館において、PTA 執行部会を開催しました。年度当初の4月に行われる予定だったPTA 執行部会、専門部会を縮小しての実施です。その会を受けて、5月15日の家庭訪問の際にPTA 総会しおりを配付させて頂きました。今年度は、特例としてこのような措置を執らせて頂きましたことをご容赦ください。

令和元年度のPTA 会長の戸栗弘毅様にもご出席頂きました。幹事職に続きPTA 会長としてご活躍頂き、誠にありがとうございました。本来ですと、全会員がそろった中でご労苦に感謝しなければならないところでしたが、PTA 会員を代表して、新役員が心を込めて労いの拍手を贈らせて頂きました。改めまして2年間本当にありがとうございました。お疲れ様でした。



戸栗弘毅会長ごあいさつ



小林正新会長ごあいさつ

令和2年度の下山PTAが、小林正会長を先頭にスタートしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、なかなか一堂に会す場面がありませんが、下山小学校PTA 活動方針の基本テーマである「学び行動するPTA」のもと、児童の健全育成のために、会員の皆様のお力をお貸しください。よろしくお願いたします。



執行部会の様子

こんな時だからこそ想うこと！

何かをしてもらっても「当たり前」、平和なことも無事なことも「当たり前」、健康なことも「当たり前」、したいことができることも「当たり前」、学校に行けるのも「当たり前」、仕事があるのも「当たり前」。今回のコロナウイルスの影響は、この「当たり前だと思っていたこと」が『当たり前ではなかったこと』に気づかせてくれました。いつも心に感謝の気持ちをもって、「ありがとう。」を……。自分も周りの人も変えられる魔法の言葉かもしれません。全てにおいて感謝の気持ちがある人は不平も不満も少なくなるのではないのでしょうか。目の前のことを一生懸命やって、何があっても、誰に対しても感謝すること。「当たり前」を「ありがとう」に変えたいですね。

文責 校長 片田幸樹